

なほ

5月号
vol. 219



「5月6日はコロッケの日」
写真..あつや(西成区出城3丁目3の18)

障害者生活の物語

しょうじょうびょうしょう

at / from nishinari

西成で / から ... ⇨ 13 ♡

特集

第5回 20年ぶりに退院してきたある男性の物語

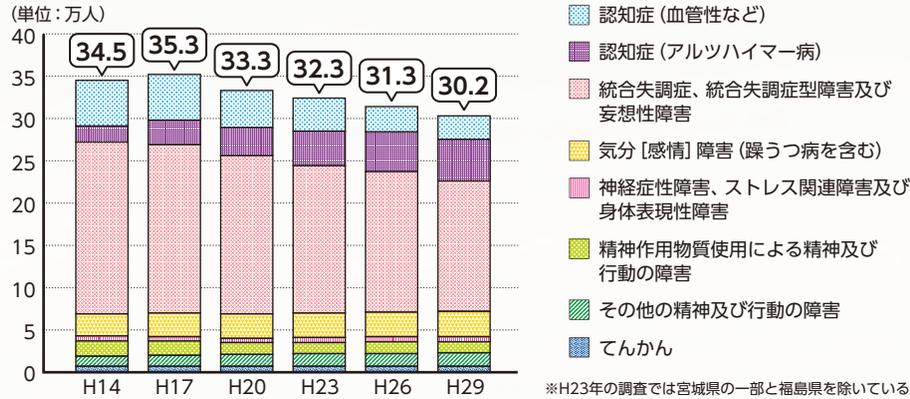


図 精神疾患を有する入院患者数の推移
厚生労働省「第13回 地域で安心して暮らせる精神保健医療福祉体制の実現に向けた検討会(令和4年6月9日)」参考資料を基に作成

障害者の物語

しょうろうびょうしょう

at / from nishinari

西成で / から ... → 13 ♡

第5回 20年ぶりに退院してきたある男性の物語

「障害者」とは、仏教の「生老病死」をもじって、「障害を持つこと」「老いること」「病気になること」「人と違った人生を生きること」を意味する造語です。本人もその周りの人たちも、とまどいや不安など、いろんな気持ちを抱きながら、一人ひとりの物語を紡いでいます。その物語に寄り添いながら、「福祉って?」「幸せって?」「地域って?」など、みなさんと一緒に考えていければと思います。

特集「障害者」は全4回の連載でしたが、好評のため継続が決まりました。引き続き一人ひとりの生に寄り添う物語にお付き合いください。
『なび』編集部

はじめに
さて、障害者の物語、第五回目の今回は、20年も精神病院に入院していたある男性の物語です。

「30、50、2、2、7」この数字の意味は...
日本全国の精神病院に入院している人が約30万人。そのうち、自分の意思によらず入院させられている人が約50%。20年以上の長期入院が約2万人。毎年約2万人が亡くなり、地域での受け皿があれば退院できる人が約7万人います。

このうちいくつかの数字をみなさんはご存じでしたでしょうか?
ご存じではなかった数字について、どのような印象を持たれましたか?

精神病院を除くと全国の入院患者は約90万人いますが、これらの人びとが本人の意思に基づかない入院を強いられることはありません。高次脳機能障害とは、けがや事故による脳損傷に伴う障害で、日常、社会生活上の困難がいろいろと生じます。たとえば、同じことを繰り返し質問したり、新しいことを覚えるのが難しくなったり、記憶障害、ぼんやりしてミスが多かったり、二つのことを同時にを行うと混乱したりする注意障害、人に指示してもらわないと計画を立てたり、時間を守るのが難しくなったりする遂行機能障害、思い通りにならないと興奮したり、自己中心的になったりする社会的行動障害があります。

高校中退後、Aさんは実家の電気店を手伝いますが長続きせず、精神病院への入院を繰り返して、40歳に今の病院に入院してもう20年になります。現在60歳。身寄りはなく、退院して幼少から高校生まで過ごした西成に住みたいと病院や行政に何度も訴えてきました。しかし一向に埒が明きません。大阪府精神医療審査会に退院請求を出したのも一度や二度ではないそうです。この審査会に寄せられた退院請求の昨年度の審査件数は208件、そのうち請求が認められたのはわずか18件

ん(感染症による隔離や救命救急などの例外あり)。
私たちがヒューマンライツ福祉協会の西成障害者会館には、精神病院から地域生活への移行を支援するチームがあります。今回は、そのチームの活動を通じて、この男性の物語に寄り添いながら考えたことを書きたいと思います。

「退院させてほしい」と訴え続けて20年

それは昨年の8月のある暑い日、西成障害者会館にかかってきた一本の電話から始まります。

「私は、ある精神病院に入院している男性Aさんの代理人の弁護士です。退院後、西成での生活を希望されているので、相談に乗っていただけませんか?」

この後すぐ、弁護士に会って、病院に面会に行きました。

Aさんは、高校生の頃、友人と3人乗りのバイクで走行中、停車中のベンツと衝突事故を起こし脳挫傷。高次脳機能障害が後遺症と

(8・7%)でした。
 Aさんの退院が認められてこなかった背景は不明ですが、病状は安定していたことから、弁護士熱心な関与と地域での支援体制の存在が今回の退院につながったように思います。

見たもの全部ほしくなっ...

Aさんの性格は穏やかで気まじめ、人懐っこい一面もあります。入院中、よくしてくれたトイレ清掃のおぼちゃん退職する際の「これからがんばってね!」との声かけを勘違いしてしまい、周りが止めるのも聞かず、退院するまでトイレ清掃を一人でやっていますほぐです。

また、入院中、生活保護費をほとんど使えなかったAさんは、貯金が数百万円にも...元来買い物が大スキ。通販のカタログ本などを見ては、色んなところに電話して、後からお金が無くなって後悔することも...。退院後が心配です。

住む場所についても大変です。西成障害者会館の地域生活移行支援チームは、周りに遊興や買い物などの刺激が少ない場所の方がよいです。
 また、自分の意思による(任意)精神病院への入院は50%に留まり、49%は強制入院、その99%が家族等による医療保護入院です。残りの1%は、他人や自分を傷つける恐れがある場合に行政が強制入院させる措置入院です。

司法の関与なく強制入院させることができるとは、OECD加盟国の中で日本だけです。2022年9月、国連の障害者権利委員会は、日本政府にこのような強制入院の廃止を求める勧告を出しました。政府はこの勧告を受けて精神保健福祉法を改定。社会的入院(本来の趣旨を逸脱して、必ずしも治療や退院を前提としない長期入院を続けること)を解消し地域生活への移行を促進するため、半年以内で入院期間をあらかじめ定めるようにしました。しかし期間さえ決めれば再延長は可能ですし、家族がいても行政が医療保護入院させることができるようハードルを下げている

いと考えましたが、他の支援者らは、20年間も病院生活をしていたので、昔住んでいたような商店街や駅近など地域での生活を楽しむようにしてほしいと言います。なので、その要望に適った物件を探しますが、お金の使い方が不安です。

ショッピングモールや飲食店、量販店への外出に何度か付き添ううちに、チームはお金の使い方の工夫を検討しました。Aさんとも相談して、買い物リストを作ってもらうことになりました。仏壇やちよっとエッチなDVDがどうしても欲しかったのですが、リストに載せて2〜3日したら熱が冷めたのか、もういらぬとのこと。すぐ買うのではなく、買い物リストに載せて少し間を置くことで、お金のやりくりはなんとかできそうです。

逆に言えば、お金の使い方以外は入院中の外出・外泊でなんの問題もなかったため、退院は非常にスムーズ。なぜ20年も入院が必要だったのか不思議なくらいで、初回相談から半年ほどで退院できました。ただ一点、長期入院のあるある話ですが、そもそも病院側が退院を想定していないので、年金や障害者手

で、昨今増加している認知症高齢者の精神病院への入院がさらに増えるかもしれません。さらに2020年、統合失調症という診断により約40年入院させられた73歳の男性が、地域で生きる権利を奪われたとして国に賠償を求める裁判を起しました。東京地裁は、昨年10月の判決で「入院が長期化したのは国が施策を怠ったためとは言えない」と訴えを退けたので、現在、原告は控訴しています。
 厚生労働省が精神病院から地域生活への移行を促している一方、このような政府や司法の対応を見ると、地域での受け皿があれば退院できる社会的入院の解消の道はまだまだ遠いと言わざるを得ません。

とはいえ、日本と同様に民間の精神病院の多い状況下で、減床分の収入を国が補償することで地域移行を進めたベルギー、日本でも精神科病院をなくした愛媛県愛南町や、北海道浦河町の「入るの家」などの実践があります。私たちも精神障害者の社会的入院の解消に向けて地道な取り組みを積み重ねていきたいと思っています。

みなさんはどう思われますか？

帳などの更新がされておらず、退院に向けて一から手続きをするのに少々手間取りました。今年3月に退院したAさんは、駅近の支援付きワンルームマンションで一人暮らしを開始、現在は、仏壇を買ったり、就労支援の事業所に通ってメダカや植物の世話をしたり、シンポジウムで自身の経験談を発表する準備をしたりなど、新しいことにチャレンジされているようです。

世界トップのベッド数、世界平均約7倍の入院期間、その半数は「強制」入院

病状が安定しているにも関わらず、Aさんは、なぜ20年もの間、入院しないといけないのかなのでしょう？ それには、日本の精神医療の在り方が大きくかわっています。

まず、1964年、精神科の治療歴のある青年に米国駐日大使ライシャワー氏が刺された事件を契機に、国は治安維持の観点から精神障害者の強制入院を進めました。精神病院の医師や看護師は、診療報酬が低い代わりに、一般病院より少人数でよいという精神科特例

おわりに

今回の障老病生の物語は、いかがでしたでしょうか？

私たちは、1993年の大阪市立西成障害者会館設立以降、精神障害者の相談支援や居場所支援、精神科医による訪問診療や訪問看護、グループホームや就労支援など、精神障害者が安心して地域で生活できるまちづくりに取り組んできました。何かご相談がありましたら、お気軽にご連絡ください。

文責：(社)ヒューマンライツ福祉協会
 法人本部 障害者支援部 部長 屋代直信

※個人情報保護等の観点から、一部事実を改変して掲載しています。
 ※本記事のロゴや文字は、編集部にお願ひして、ロイヤリティの方や色覚障害の方にも読みやすいユニバーサルデザインにしております。



ヒューマンライツ福祉協会
 LINE公式アカウント

にしなりもん

食いだおれの街・大阪ミナミのさらに南の街・西成。
まだまだ発掘されていない「にしなりもん」を味わい尽くします。

お・ぼ・ん・ぎ・い 「バンザイウタゲ」

唐突だが「お番菜」これは何と読むでしょう？ 難読でもなくそのまま「おぼんぎい」。いつのまにか食事処・呑み処では定着している言葉だが、果たして筆者が若い頃にここまで人口に膾炙^{かいしやく}していたらどうか。

調べてみると、一般社団法人日本おぼんぎい協会の定義では、京都の日常的な食事や料理などで、70年代から80年代にかけて日本に広がっていった文化とある。筆者は80年代生まれなので自分が知らないだけだったようだ、反省。

さて今回はそんな、おぼんぎいが美味しくいただける「バンザイウタゲ」さんを訪問。なにわ筋を西成区役所に向かう途中の西天下茶屋駅近くにあり、もともとは「和知万酒店」という店名で、呑みの場として、町の大切なコミュニティの場としてあったところを、現在のママが引き継いで「バンザイウタゲ」として再オープンしたものである。ちなみに



る」を注文。

おぼんぎいはどれも美味しく体に優しい、家ではなかなか味わえないお味、飲みやすい南河内のクラフトビールと相まってお箸が止まらない。ちょうど筆者はガチダイエツト中ということもあり「じゃあビールを飲むな！」というツッコミはスルーして（体に優しいお野菜豊富なおぼんぎいはありがたい。筆者が定食にあるのを気づかず同じものを一品で頼んでしまったら、「じゃあ、ちょっと具材変えるね」とママの計ら

いも嬉しい。その一品料理もおいしくて結果、一杯だけと思っていたビールが二杯、三杯…

美味しいご飯とお酒があれば、話も弾むといった感じで、常連さんと思しきお客が盛り上がりつついたり、待ち合わせの場所にしていたり、ママが言う「大切なコミュニティ」というのを体現しているなど感じた。

チラシには「お一人様も赤ちゃんと一緒にのママさんもお気軽に」、「ワンコさんどうぞ♡」とある。また、テイクアウトやケータリング（要予約）もあるので、いろいろなシーンでおいしいおぼんぎいが楽しめそうだ。

「ごちそうさまをして、ママに見送られて店をでる。4月初旬、満開の桜の下でお腹も心も満開で帰路につく。」

文責：笹川勝正

バンザイウタゲ 和知万本店

住 所：西成区橋3の4の5

営業時間：11時30分～20時30分

定休日：月・火

Instagramアカウント：@banzai_utage_wachinanhonten



ウタゲはママのお名前とのこと。

16時頃にお伺いすると、こぢんまりとした店内はすでにお客さんとママの会話で盛り上がりつつある。カウンター席と2人がけのテーブルが2つ、カウンターは立ち飲みでも、椅子でもOK。オープンしてまだ半年なので、店内もきれい。テーブルに座り、メニューを拝見、一品から定食まで種類豊富で、お勤めの日替わりおぼんぎい定食を中心に、甘えびの唐揚げやハムエッグなど一品料理をオーダー。

定食はおぼんぎい5種にサラダ、雑穀ごはん、お味噌汁とメインのハンバーグがあり、ポリウムも満点。種類豊富なおぼんぎいを見て、予定になかったのにビールが我慢できなくなり、初見だった南河内のクラフトビール「河内乃えー



[住友宣夫] 3月から4月にかけては花粉症、寒暖差と、大変な時期でした。花粉症はまだ続きますが4月以降は過ごしやすい気温になってほしいですね。



[笹川勝正] 神戸の桜の名所、夙川でお花見をしました。河川敷に沿って桜が綺麗に咲いており、平行的に花見客がたくさんで、花より団子状態でした。



[沖田一志] 来週、キャンプに行く予定。前に行ったのは1年前？ もっと前かも。以前なら予約が全く取れなかったキャンプ場が、今は簡単に予約できるようになった。こんな時代が続けばいいなあ。



[磯拓哉] 春といえば桜、綺麗ですね。すでにお花見を2回しています。春はほんとにいい季節が好きです。これから暑くなることを考えると今からゾッとしています(笑)

些事争論

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。いいこと思いつくかもしれないし。気がついたら西成にたどり着いていた、或るオタクのこっそり系コラム。

東西問題

今からちょうど50年前、2つの小学校から上がってきて6対4という生徒割合の地元中学校に入学しました。当初はもう1つの小学校から来た同級生たちを、初めて異国人を見るかのように、やること話すことのすべてに鮮烈な印象を受けた記憶があります。人数差からくるパワーバランスなのか、「けんか強い」が6割の小学校で、「勉強ができる」が4割の小学校と、なんと多くの伝統みたいなものがあつたように思います。まあ結局そんなことは全く関係なく、楽しく中学3年間を過ごすことができました。

時は流れてわが子が自分の母校の小学校へ上がるとPTAに参加することになりました。そのつながりで青少年指導員(青指)にも参加して地域活動を始めるようになり、PTAや青指の活動を続けて行くうちに、他の地区(小学校区とほぼ同じ区割り)とも交流が増えて、友人も沢山できました。行事やイベントで一緒に汗を流し、打ち上げでお酒をたっぷり飲んでと楽しく活動していました。

そんな飲み会の中でよく話題となつたのは、自分の地元地区の自慢話や苦

この「東西問題」を抱える地区同士は古くは村が違ふところが3か所、同じ村の中が1か所あります。村が違ふとなれば神社も祭りも違ふので、そもそも氣質が違ふているのかもしれない。残り1つの同じ村のところでは、商店街があり商店の多い

労務隣の地区の悪口。悪口というかあの地区にだけには負けたくないとの意地の張り合いという感じの話「うちは昔から街であつたは畑ばかりやつた」などと、この意地の張り合いの話が良い酒の肴でとても盛り上がります。何年か経つとこの意地の張り合いは、同じ中学校へ上がる2つの小学校の地区同士ということが判ってきました。なぜか3つの小学校から中学校へ上がる地区同士では、意地の張り合いを聞くことはあまりありませんでした。というところでこの2つの地区同士での関係性を、わがまちの「東西問題」としてみたい。

地区と住宅地でお勤めの方の多い地区との違いがあるようで、色と温度がなんとなく違ふらしいです。学校や地区ごとに大切にしていることはそれぞれ違い、またそれを守って長く続けていることはとても素晴らしいことだと思います。地元愛が溢れる先人のみなさんに感謝です。

そしてとうとうわが子が自分の母校の中学校へと入学。子どもの数が激減しあの伝統みたいなものは薄れてしまっていました。保護者同士となると何となく名残を感じ、モヤモヤ感を持ちながらPTA活動をした覚えがあります。



それから10年以上経ち選歴を過ぎて張り合ふ気力もすつかり無いはずなのに、年に一度だけあの地区だけには負けたくない日があります。区民体育祭みたいなアレ、全体の順位よりもあの地区より上や下やと、一喜一憂する同志を他の地区でも毎年見掛けま

ハンブレイ・T



4月4日はGCC Kidsの入園式！わくわくドキドキしながら入場してくる可愛い子どもたち。担任の先生から一人ずつ名前を呼ばれて首飾りのプレゼントをもらいました。なんだかちょっと緊張の面持ちだけど、きっとすぐに友だちになれるよね。



大阪市の住民参加型地域組織「地域活動協議会」の活動に橋を架けよう【近ツ橋【ちかつきょう】】

近ツ橋

松之宮ホールお披露目会



新築の建物独特の良い匂いがとても好きなのだが、共感してもらえらるだろうか。

3月15日、松之宮ホールのお披露目会が開催された。建物の老朽化により建て替えが決まり、別館の跡地に新築された。当日は約50名の方々が参加し、各団体からお祝いの花が贈られていた。西成区長はじめ西成消防署長、西成警察署長(代理)ら来賓の祝辞、松之宮連合会長の山上さんによる主催者挨拶の後に乾杯、ノンアルビールやジュース、お菓子でにぎやかな交流会、歓談の声が真新しいホールいっぱい響き渡っていた。

館内は事務所、会議室、倉庫、

キッチンに加え多目的トイレもありバリアフリーも充実。印象深かったのはキッチンの小窓。ドリンクや料理をホールへ素早く提供できる。これらは地域の方々の声が反映されたものだ。松之宮ホールでは毎週水曜日13時30分からは「スマイル」(ゲームやお茶会など)、金曜日13時30分からは「100歳体操」が実施されている。誰でも参加できるので、ぜひ新しい松之宮ホールを体験してみてください。

松之宮ホール

- ◎ 毎月第2土曜日 12時~13時
- ◎ 西成区鶴見橋3の3の2
- ☎ 06-65661-6156



【谷口円】Googleマップで自宅の近所を定期的に散策します。知らないお店や新店が見つかったり、よく分からない場所が出てきたり、意外と新たな発見あり。暇つぶしにオススメ。



【田岡秀朋】ケースデンキがオープンした。近隣の大型商業施設は町名を店名とすることが多かったが、西成店を名乗り、3階には本社もやってくる。未永このまちのパートナーとして商売繁盛しますように~



【福井龍磨】金石範『火山島』(全7巻)を購入。1948年4月に韓国の済州島で起きた「四・三事件」がテーマの長編小説である。大阪へ連れてきた島民も多く、今年も天王寺区の統国寺で慰霊祭が行われた。



【西田吉志】4月14日、Aダッシュワーク創造館で行われたエスペラントサ靴学院51期生の入学式。新入生は世界でも類のない製靴技術・知識と靴ビジネスの2本立てカリキュラムを1年かけて学ぶ。

葉っぱの吐見

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。



「サフィニアアートの葉っぱ」の巻

買いものにいききました。たくさんの方がいました。花屋のまえをとおりました。とてもいい香りがしました。葉っぱもいっぱいありました。緑のじゅうたんみたいでした。でも寂しそうにみえました。わたしは悲しくなりました。かわいい花がさきますよ。お店の人がいました。わたしは嬉しくなりました。1つの葉っぱを抱っこしました。どんな花が咲くのかな？ワクワクしながら帰りました。

赤井まゆみ

帰路後、すぐ鉢に植え替え水やりをしました。花が咲いたら皆さんにお伝えしますね。

い湯かげん

万博で近未来を体感したい

いよいよ大阪・関西万博が4月13日から10月13日までの184日間、此花区の夢洲ゆめしまで開催される。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。要は、これまでの開発一辺倒ではなく、持続可能な開発目標(SDGs)を実現した未来社会のライフスタイルを模擬体験しようということ。建設費の高騰と準備の遅れとか、経済効果2兆〜3兆円なんて過大評価だとか、何かと評判は芳しくないみたいだが、それはそれで万博そのものの意義が下がるものではない。

期待もある。孫はさっそく学校から行くみたいだが、そのまた孫の時代にタイムスリップし、何かを掴んで欲しいと願う。孫の二度目の万博行きはボクが連れて行きたい。ナイスが加盟しているエルチャレンジ(障がい者雇用の事業協同組合)は、大阪府の要請にもとづいて万博に協力してきた。9月の大阪ウィークでは、「OSAKAから地域共生の未来をつくる」プロジェクトが実施され、9月14日には障がいの就労訓練として「エルチャレンジャー」を開催する。障がいの者が安心して大阪ヘルスケアパビリオンに会場できるよう、視覚、聴覚、知的の障がい者用の案内動画も製作し、YouTubeで観ることができるようになって

いる。また、ナイスが経営に参加しているビッグアイ(堺市にある障がいの者向けホトル及び会議場)もオープン。当日から何度かのイベントを企画している。万博反対の声にちよつと萎縮したりして内緒にしてたわけじゃないが、実は、ボク達は、万博の府民参加のキャストだった。何かと比較されるが、1970年大阪万博は国や大企業のパビリオンが中心で、中小企業の参加は限定的だった。それに対して今回は中小企業の参加を促すための支援策が積極的に講じられている。ここが見所だと高見一夫さん(Aダッシュネットワーク創造館館長)は指摘している。大阪ヘルスケアパビリオンでは中小企業やスタートアップ企業400社以上が選定され、26週間の会期中の週替わり展示「リポーンチャレンジ」が行われる。また、中小企業基盤整備機構と中小企業庁も10月に「未来航路20XX年を目指す挑戦の旅」という展示を実施し、未来志向の製品やサービスを持つ企業の魅力を体験型で紹介し、国内外に発信する。

皮算用 胸算用

2025年4月10日、大阪府立市民交流センター西成跡地に大型家電量販店ケーズデンキがオープンした。オープン初日には多くの方が来店したようだ。この街にこうした民間企業が開業するのは初めてだと思う。長年かかった長橋地区改良事業もいづれ始まるだろう。地域に点在する空地もこの街に暮らす人たちにとって良い方向に進めて、賑わいのある明るい街に変えていってくれたらと思う。

今後、この街はもっと変わっていくだろう。若い人たちが地域から出ていくのではなく、「まちづくり」に参加しながらここで暮らす人たちとともに街の発展のために意見を発信してほしい。

(寺本良弘)



「大阪春・夏・秋」と題した400を超えるイベントプログラムの中には、5月に「地域の魅力発見ツアー」が生まれ、大阪43市町村と大正区、港区、生野区、八尾市などにある身近な中小企業も多数出展する。何かと停滞感が強い経営環境の中で自らの技術を世に問い、新たな発展につながる機会になつたらと願う。

今回の万博は「いのち」がテーマだから、人権あるいは地域を思い描く。未来はわからないが、近未来の人権は未だ差別と向き合っているだろう。近未来人の差別の克服への叡智を体感しながら、いまを考えたいもの。ちよつと高いが、老いたボクも三回は万博に行ってみたいと、混まない時期を探している。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

[山村裕太] 数か月に1日はあった「結婚してみたい」欲が全く姿を現さなくなりました。理由は不明ですが、とりあえず独身のプロフェッショナルを目指したいと思います。

[若松司] 向こうに見える小さな桜並木が低くたなびく春霞のよう。月夜に酌み交わした、あの満開の桜も雨に濡れて葉桜へと変わっていった。新緑が眩しい五月に思い出す、四月の景色。

地域の縁を心でつなぐ



心の時間

昨年、若いご婦人が入院中のご主人に会いに行く途中で交通事故に遭い亡くなられました。残されたお子さんは、祖母の家から学校に通っています。愛犬の死に悲しみに暮れていた私ですが、この連絡を受け、子育てや経済の問題といったいくつかの難問を一瞬にして抱えてしまったご遺族の苦しみ、思いを巡らせました。それは愛犬の死とは次元が違う悲しみです。

それにしても何と厳しいことが起きてしまったのでしょうか。「代わってやりたい」「一日をやり直したい」と嘆いても現実を変えることはできません。ならば、救われる道はないのでしょうか。高杉晋作の辞世の句が示唆を与えてくれます。

二十七歳という若さで亡くなる高杉がその死の直前「面白きことなき世に(を)おもしろく」という句を書き残すと、そばにいた歌人の野村望東尼が「すみなすものは心なりけり」と下の句を継いだと伝えられています。いつの時代でもどんな状況でも「自分の心次第」で人生は変えられることを忘れてはなりません。

松向寺 通法

写真は人生の一部が映ったもの。



ワタシ の1枚

『街の名は。』

2022年の夏。偶然が重なった。入道雲がハルカスを襲う怪獣に見えた。黄色の看板やピンクのチン電も映り込んでいた。このコントラストがお気に入り。こんな写真はもうとれないだろう。なんちゃって新海誠な気分浸れたわたしの1枚。

(編集スタッフ 田岡秀朋)

ここは思い出や自慢の1枚を少しご紹介するコーナーです。



ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび5月号(vol.219)
発行日:2025年5月1日(創刊日:2007年1月1日)
発行:株式会社ナイス
住所:大阪市西成区長橋3-6-33
電話:06-6563-1150
E-mail:info@nice.ne.jp
url:https://www.nice.ne.jp/

編集長:西田吉志
編集:磯拓哉、沖田一志、笹川勝正、住友宣夫、田岡秀朋、福井龍磨、山村裕太、若松司(あいうえお順)
イラスト:hidarimaki、西井亜花梨
デザイン:谷口円

(株)ナイス
ホームページ

